

# 戦時下のロシアで



北緯50度線（旧日ソ国境）

## 安達 隆征 (あだち たかゆき)

前・ユジノサハリンスク日本国総領事館領事  
国土交通省北海道開発局札幌開発建設部地域連携課  
上席専門官

1996年北海道開発局入局。主に道路事業に従事した後、2021年3月から2024年4月までの3年間、ロシア連邦共和国サハリン州（旧樺太）にあるユジノサハリンスク日本国総領事館に勤務。コロナ禍全盛期の2021年3月に着任し、2022年2月にロシア軍がウクライナに侵攻したことから、戦時下のロシアで生活する。2024年4月から現職、博士（工学）。

### ユジノサハリンスク ～ 札幌間の所要時間と往復運賃の推移

時期	所要時間（時間）	往復運賃（万円）	経路
2020年3月以前（コロナ禍前）	1	4	ユジノサハリンスク ⇒ 札幌（直行便）
2020年4月～2020年11月（コロナ禍初期）	20	15	ユジノサハリンスク ⇒ モスクワ ⇒ 東京 ⇒ 札幌（フライト3回）
2020年12月～2022年2月（コロナ禍全盛期）	12	7	ユジノサハリンスク ⇒ ウラジオストク ⇒ 東京 ⇒ 札幌（フライト3回）
2022年2月以降（戦争開始後）	58	30	ユジノサハリンスク ⇒ モスクワ ⇒ 中東 ⇒ 東京 ⇒ 札幌（フライト4回）

## 1 はじめに

2022年2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻したことを境に、ロシアに住む在留邦人の生活環境が激変しました。外務省はすぐにロシアを危険レベル3に引き上げ、渡航中止勧告を発し、日本政府は西側諸国と歩調を合わせてロシアに経済制裁を与えました。そのため、ロシア政府は日本を非友好国に指定してしまいました。

## 2 戦争による生活の変化

### (1) 生活費

ロシアはSWIFT（世界的な金融機関ネットワーク）から除外されたことにより、ロシアの銀行と日本の銀行間で送受金ができなくなりました。当然、日本のクレジットカードはロシア国内では使えなくなります。その結果、ロシアの銀行に米ドルや円をあまり預けていなかった館員は、後述する経路により急遽私費で日本へ現金を取りに行かなければならなくなりました。私は幸いにもロシアの銀行に半年分は生きていける米ドルを預けていたので、すぐに日本にお金を取りに行く必要はありませんでしたが、その後、日本から米ドルか円の現金を百万円単位で持って来なければならなくなりました。移動の際、トランジットの空港では現金を肌から離せず、ロシア入国時では非友好国からということもあり、不安と緊張のなかイミグレーションを通りました。

### (2) 遠くなった日本

表に示すように、コロナ禍前まではサハリンの州都であるユジノサハリンスクと札幌の間には、僅か1時間の飛行で週に5便もの直行便が就航していました。しかし、戦争開始後は西側諸国のロシアへの経済制裁の影響で、ロシアと日本を含む西側諸国間の直行便がなくなりました。そのため日本に一時帰国するときは、図に示すようにモスクワから直行便がある中東諸国を経由しなければなりません。ユジノサハリンスクからモスクワまで約9時間かかる国内線に乗り、アラブ首長国連邦やトルコなどの中東諸国を経由して東京に向かいます。トータルで4つの飛行機に乗り継ぎ、



ユジノサハリンスクから札幌までの飛行ルート（図は外務省HPより）  
丸3日かけて札幌に辿り着く行程になりました。

当時はコロナ禍の影響で、海外からの日本入国者はPCR検査の陰性証明書があってもコロナ感染の疑いを懸念されていました。そのため公共交通機関には乗れず、成田空港から自家用車で自宅に帰ることができない人は、入国直後から成田空港周辺のホテルで2週間もの長い隔離を強いられました。隔離期間中の宿泊代や食費はすべて自腹で、しかも有給休暇を使わなければなりません。

往復の飛行機代は表に示すように相当な額（約30万円）になりました。私の前任者までは私費で2～3ヶ月に一度のペースで一時帰国できたいのですが、私は年に1回の旅費が支給される健康管理休暇でしか日本に帰れなくなりました。ほぼユーラシア大陸を往復する距離の移動になり、北海道からたった43kmしか離れていない隣の島が、南米よりも遠くなってしまったのです。このような状況で、日本に置いてきた家族をサハリンに呼び寄せることは3年間一度も叶いませんでした（2024年現在は極東ロシア～中国間の直行便が再開したことにより、館員の一時帰国は中国経由になっているようです）。

### (3) 日本人の一斉退避

日本が非友好国になったことから、北海道サハリン事務所、北海道新聞社ユジノサハリンスク支局、大手商社の駐在員が次々とサハリンを去り、中東経由で日本へ退避しました。異国の地で知り合い、せっかく仲良くなった日本人が次から次へといなくなり、私はまるで終戦後の樺太で日本本土に戻れなくなった樺太残留邦人のように、サハリンに取り残された気持ちになりました。

戦争開始一ヶ月後には、サハリンに60人余りいた在留邦人が30人以下になってしまい、その半数は総領事館関係者で、残りは当地でロシア人と結婚された方々になりました。このとき初めて、「外交官は任地に日本人がいる限り退避することはできない」という外交官の責務と使命を強く感じました。

### (4) 食生活の変化

サハリンには日本人が20年以上も経営する老舗の日本料理レストランが2軒あり、日本人の憩いの場になっていました。2022年8月、その2軒の日本料理レストランはコロナ禍と戦争の影響で経営不振になり、突如としてほぼ同時に閉店してしまっただけです。他にもロシア人が経営する日本食レストランは数件ありますが、日本人の口に合うものではありません。それに加え日本と友好関係にある国ではよく見かける日本の日本食チェーン店はサハリンには全くありません。また、納豆やめんつゆが戦争前には時々スーパーマーケットで手に入ったのですが、戦争が始まってからはピタリと入荷しなくなりました。日本からの食料や物資の輸送は戦争が始まってからは途絶えてしまったので、一時帰国時に日本から調味料や簡単に作れるレトルト食品をキャリーケースに大量に入れて、サハリンまで持って来なければならなくなりました。しかし、それらの食料を細々と食べていっても数ヶ月で切れてしまいます。ロシア料理が口に合わない私にとって、この食生活の問題がサハリンの生活のなかで最も過酷でした。

### (5) SNS環境

ロシア政府は西側諸国のSNSを禁止し使えなくなるようにしたので、日本にいる家族との連絡が一時途絶えました。ロシア国外の有料VPN（仮想専用回線）を通せば使えるようになりましたが、そうするとロシアのSNSが使えなくなります。その切り替えが非常に面倒でしたが、日本にいる家族とはVPN接続によりなんとかLINEで連絡を取り合うことができました。

### (6) 経済制裁の矛先

西側諸国のロシアへの経済制裁の影響は、前年度比で10%程度の物価上昇があったぐらいでした。日本ではロシア国民が窮地に追い込まれていると報道されていたようですが、資源大国であるロシアにはそれほど響いていませんでした。電気、ガス、ガソリン、携帯

電話の公共料金は日本に比べて非常に安く、モスクワやサンクトペテルブルクの観光施設などの至る所で、夜中にネオンが煌々と光っています。

このように、日本を含めた西側諸国の経済制裁は、ロシア国民ではなくロシアに住む日本人を含めた西側諸国の外国人にブーメランのごとく突き刺さったのです。

### 3 仕事の変化

私は総領事館の最前線である領事・警備の仕事に従事していました。在留邦人に対しては安全を手助けする邦人援護と市役所の窓口業務のような仕事です。ロシア人に対しては日本のビザの発給が主な仕事になります。

コロナ禍の影響で日本からのVIP訪問や観光客はゼロになり、ロシア人の日本へのビザ申請も激減していました。また、戦争の影響で在留邦人が退避したことにより、証明書やパスポートを発給する窓口業務も減りました。それに、総領事館が企画する文化交流が非友好国のため一切できなくなり、サハリン州政府の要人と会う機会もほぼなくなりました。

一方、在留邦人への情報共有と安全を促す手段である「領事メール」を発出する機会が極端に増えました。コロナ禍による日本入国時の水際措置対策やPCR検査の陰性証明書提出の基準が何度も変わったからです。また、ロシア国内で起こったドローン攻撃、クーデター、反政権指導者の追悼式などの戦争絡みの事件により、在留邦人に注意喚起しなければならないことが増えていき、土日昼夜問わず対応しなければなりません。

本国と任国間の運搬業務である「物資調達クーリエ」や「在外選挙クーリエ」に関しては、コロナ禍と戦争の影響で東京からモスクワに変わりました。そのため、日本には行けなくなりましたが、モスクワに行く機会は極端に増えました。



モスクワの赤の広場とクレムリン

戦後、樺太に取り残された樺太残留邦人との交流では、南サハリンにたくさんある日本人慰霊碑を一緒に巡り献花したり、彼らの日本への一時帰国、永住帰国を支援しました。彼らとの関わりは、樺太の歴史について多くのことを学ぶ機会となりました。



日本人死没者合同慰霊碑に献花

それと在任中に忘れることができない出来事は、2022年4月に起こった知床観光船沈没事故です。サハリンと国後島の海岸で3遺体が見つかり、サハリン州政府とDNA鑑定やご遺体の引き取り方法について数ヶ月にわたり協議を続けました。引き取り時には、ご遺体と運転免許証や現金などの遺留品の確認を行い、いたたまれない気持ちになりました。

### 4 戦争開始後のロシア人

ロシアとウクライナの戦争は長期戦になり、直属の秘書の弟や当館の運転手の弟が次々に戦死しました。日本はロシアから非友好国いわゆる敵国に見なされているので、日本国総領事館としては告別式の参列は控えました。また、国を見限った多くの若者は徴兵を逃れるために、ジョージアなどの旧ソ連構成諸国や韓国などに亡命していきました（サハリンには約2万5千人の韓国系ロシア人がいるため）。

このようにロシア国民の日常にも直接戦争による悲劇が浸透していきました。しかし、ロシア人は政府に声を上げることができません。政治を批判すると逮捕されるからです。仲良くなったロシア人の本音からは、反政権派が多数という印象を強く受けました。彼らは何のために戦争をしているのか理解できずにながら、大多数が政治を変えることはできないと諦めています。しかし、多くのロシア人は政治や戦争と自分の人生を切り離し、人生を豊かに楽しく生きることを選択しています。

ロシア人は親日派が多く、とくにサハリンの人はコ

コロナ禍前までは地理的に近い日本によく旅行に行っていたようです。ロシア人はとても親切で世話好きで、私が非友好国の国民だからと言って、サハリンで一度も差別を受けたことはありません。私が外国人だからであるのかもしれませんが、道で困った顔をしていると誰かが必ず声をかけてくれて、とても人情味があり、どことなく昭和感が漂うところでした。

## 5 ロシア人との交流

その後も在留邦人は減る一方で、日本からは誰も来なくなり、離任するまで館員以外の日本人に会う機会はほぼなくなりました。そのことから必然的にロシア人と交流する機会が多くなり、趣味を通してロシア人の友達が増えていきました。彼らは週末いろいろなところに私を車で連れてってくれました。

### (1) 登山

サハリンには知床半島のような手付かずの大自然が至る所にたくさん残っています。北海道ほど高い山はありませんが、北海道の2,000m級の山の景色や植生が1,000m級の山で楽しむことができます。私はサハリンで



春の雪山登山

最も美しく人気があるジダンコウ山に魅了され、ロシア人の友達に誘われて4回も登りました。



ジダンコウ山の山頂

### (2) 自転車

地盤の凍上現象により舗装の路面状態が悪いサハリンではマウンテンバイクが主流です。しかし、近年は

ユジノサハリンスク(人口20万人弱)と人口2~3万人の中核都市間の主要幹線道路だけは綺麗な舗装道路に整備され、ロードバイクユーザーが増えています。ただし、主要幹線道路以外は未舗装なので、行った道を引き返さなければなりません。サハリンに比べると舗装道路でどこでも



マウンテンバイクのレースに初挑戦



主要幹線道路でもいさなり未舗装箇所が現れるので注意が必要

周遊できる北海道はロードバイク天国と言えるでしょう。また、日本のようにどの街にもコンビニがあるわけではないので、しっかり補給食や水分を持って行かないと大変なことになります。100km以上無補給地帯が続くことはレアなことではありませんでした。

### (3) ウィンタースポーツ(スノーボード、スケート、クロスカントリー)

北海道の日本海側より降雪が少なく気温が低いサハリンはパウダースノーがあまり期待できないため、スノーボードやスキーよりもクロスカントリーが盛んです。また、スケートリンクは屋内外合わせるとユジノサハリンスク市内に10カ所以上もあります。

ユジノサハリンスク市内から車で僅か10分足らずで行けるところに、「山の空気」というスキー場があります。北海道のルスツスキー場並の規模で、近年はニセコエリアのようにホテルやレストランなどの商業施設が建設されリゾート化が進んでいます。冬になると雪が少ない大陸から多くの観光客が訪れています。



街の至る所に屋外スケートリンクがある

#### (4) 釣り

サハリンは釣り天国だと思います。北海道では高級魚である松川ガレイが普通のカレイよりも釣れました。サハリンの日本海側では温暖化の影響なのか、ロシア人の友達に誘われて船に乗りマグロを釣ったこともあります。冬はコマイの氷上釣りが盛んで、川ではイトウが釣れました。ウニは買うものではなく海辺で獲るものでした（ロシアでは違法ではありません）。



#### (5) スポーツイベント

健康志向が高いサハリンでは、マラソン、デュアスロン、トライアスロン、自転車レース、ウィンタースポーツなどのスポーツイベントが年中ひっきりなしに開催されていました。州から助成金が出るため参加費はほとんどかかりません。私は3年間で様々なイベントに参加しました。そのなかでロードバイクとランニングのデュアスロンレース大会に男女ペアの部門で参加し、3位に入賞したことが一番の輝かしい思い出です。

戦争とは無関係にサハリンの人たちはスポーツを通して人生を本当に楽しんでいます。



男女ペアのデュアスロン大会で3位入賞

#### (6) サハリンのツアー旅行

戦争の影響でロシア人の海外旅行は難しくなりました。そこでロシア人が目を向けたのがロシアの辺境の果てにあるサハリンへの国内旅行です。モスクワやサンクトペテルブルクなどの大都市から多くの観光客がサハリンを訪れるようになり、島内のツアー旅行が充



日帰りジープツアー（唯一の外国人として車の上に乗らされる）

実してきました。私もロシア人の友達に誘われていろいろな日帰りツアー旅行に参加しました。



チセ（アイヌの家）の復元  
樺太にもアイヌ人がいる

#### 6 おわりに

戦争のせいで想定外の困難に遭いましたが、それを上回るほどロシア人の温かさに触れ、心を通わすことができました。皮肉なことにもし戦争がなければ、私は狭い日本人社会の中だけで生きていたと思います。

日本に戻って半年が経ち、未だにサハリンの友達からSNSで「いつ戻ってくるの？」と聞かれます。離任間際、私は彼ら彼女らと永遠の別れになるかもしれないことを覚悟していました。最後に暗い話はしたくはなかったので、一部の親密な友達以外には別れを告げずにサハリンを去りました。

日本に戻り、戦争のせいでサハリンの友達に現実的に会えなくなったことを非常に悲しく思います。いつか必ず日露友好関係が元に戻り、以前のように札幌から1時間でサハリンに行ける日が来ることを心から願っています。



春のピクニック（友達との関わりの中でロシア語を覚えました）